



武蔵野沖縄の工場内部を報道陣に公開した(11日、浦添市)

セブン沖縄の総菜工場

最新の炊飯釜 弁当おいしく

セブンイレブン・沖縄の炊飯釜などを整備し、新工場(那覇市)は11日、県内初出店に向けて建設を進めてきた総菜などの製造工場を報道陣に公開した。工場は浦添市内に立ち、3階建てで延べ床面積は約1万6千平方メートル。高い沖縄の水を軟化させ、セブンの工場では初める機械も取り入れた。店長の木崎博人となる最、補への配送トラックはハ

セブン沖縄 工場公開



稼働テストからきょう

コンビニ大手セブンイレブン・ジャパン(東京都)の子会社セブンイレブン沖縄(那覇市、久鍋研二社長)は11日、県内で総菜や弁当などを製造する浦添市の食品工場を関係者に公開した。工場は12日から稼働を開始する。施設は3階建てで延べ床面積1万6千365平方メートル、1日当たり最大で13万8千食を製造できる。

セブンは1カ月後の7月11日に、那覇市など県内各地で14店舗を同時に開店する。沖縄進出で全47都道府県への出店となる。久鍋社長は「7月11日の開業に向けて商品供給できる体制を整った」と話した。食品工場はセブン向けの食料品を製造する武蔵野(埼玉県)が、沖縄食糧(浦添市)と共同出資で設立した「武蔵野沖縄」が工場を運営する。工場には最新の設備を導入しているほか、配送車両はハイブリッド車など環境負荷の少ない車種をそろえる。

セブンは、浦添市にもデザート工場を建設しており、浦添市の工場と合わせて2カ所で県内全店の総菜やデザートなどをまかなうという。今後は沖縄独自の商品開発も進める。

セブン初出店は14店舗

来月同時開業 本島南部中心に展開

コンビニエンスストア最大手のセブンイレブンが7月1日に県内出店する「1号店」が14店舗であることが11日、分かった。同日、セブンの弁当や総菜をつくる武蔵野沖縄の専用工場の内覧会で、セブンイレブン・沖縄(那覇市)の久鍋研二社長が明らかにした。

セブンは4月中旬に公開したホームページのスタッフ募集によると、那覇市内7店舗、糸満市内3店舗、豊城市内2店舗、八重瀬町内1店舗、北谷町内1店舗となっており、7月11日開業の店舗とみられる。

社一階部分で、セブンとファミレス(F&C)の商業施設内にあり、金秀本が運営する。北谷町北前

セブンは5年間で250店舗の出店計画を立てている。1号店は那覇市や本島南部エリアを中心とした出店で、本島中部や北部へと徐々に広げる方針。

はりゆうせきがガソリンスタンドと併設した店舗を展開する。オープン時間は午前7時。

セブンは、浦添市にもデザート工場を建設しており、浦添市の工場と合わせて2カ所で県内全店の総菜やデザートなどをまかなうという。今後は沖縄独自の商品開発も進める。



米一粒一粒を均一に加熱できる「踊り炊き」の釜を紹介する武蔵野沖縄工場のスタッフ(11日、浦添市)

県内180人新規採用 セブン浦添工場内覧会

セブンイレブンに弁当や総菜などの「中食」を供給する武蔵野グループ(埼玉県)の沖縄法人「武蔵野沖縄」(浦添市、山根理社長)とセブンイレブン・ジャパンは11日、同市港川に新設した専用工場内覧会を開いた。1日最大13万8千食を生産できる最新の調理機器を導入し、12日から試験稼働する。県内で約180人を新規採用し、社員・パートの計315人体制でセブンの7月開業に備える。

沖縄法人は武蔵野と沖縄食糧の共同出資で2017年12月に設立。18年7月から工場建設を始め、一部道路を除き建物完成した。敷地面積約2万3200平方メートルに3階建ての鉄骨造りの工場を整備。延べ床面積は約1万6300平方メートル。セブンの一部工場では試験導入している米の一粒一粒を均一に加熱できる「踊り炊き」の釜を導入。煮る、焼く、蒸すなど4種類の調理ができるオーブンのほか、加熱後、急速冷却して賞味期限を長く保つ最新設備を備えた。

工場内は設備をさらに増やすスペースもあり250店舗の出店先を見据えて、1日最大50万食を生産できるよう設備を追加。社員・パートも増やし、500人体制にする。工場には配送トラック30台分のトラックヤードを設置。ハイブリッド車12台と電気自動車1台のトラックを配置し、稼働に応じて今後、増やしていく。オキコに製造を依頼する菓子パンの一部を除き、武蔵野工場と浦添市のスイーツ工場で焼く。武蔵野は沖縄独自の中食として5、6アイテムの製造を検討しているという。